第１６回
台東区子供歴史・文化検定
解答と解説（中学生用）

解説文の最後に、参考として『台東区歴史・文化テキスト』の頁数を掲載しています。

台東区教育委員会

たいとう文化発信　江戸たいとう

問１．正解　ウ

上野公園には摺鉢山古墳から東京国立博物館にかけていくつもの古墳がありました。現存する摺鉢山古墳は１５００年ほど前につくられたと考えられています。（第三版１４・１５頁、第四版１３・１４頁）

問２．正解　エ

寛永寺は幕府の庇護（庇って護ること）を受けて天海僧正により開かれました。２０２５年が創建４００年にあたります。２代将軍秀忠の時に着工し、３代将軍家光の時に落慶（神社の新築や改築が完成すること）しました。（第三版２０頁、第四版１９頁）

問３．正解　エ

両国の花火は、８代将軍徳川吉宗が、大飢饉や疫病の流行によって死亡した多くの犠牲者の慰霊と悪疫退散（疫病を起こす疫病神の退散）を願って、１７３３（享保１８）年に催した水神祭と、両国橋周辺の料理屋が幕府の許可を得て花火を上げたことに始まるとされています。以降、この両国の花火は「両国の川開き」と称されて江戸の名物となり、現在の隅田川花火大会につながっています。当初は鍵屋のみが上げていた両国の花火ですが、鍵屋から独立した玉屋が創業すると、「両国の川開き」には上流下流でそれぞれ花火を打ち上げるようになり、江戸の人びとは「たまや～」「かぎや～」と屋号をかけ声に、花火師の腕を褒めたたえました。玉屋は、失火による所払いで浅草に移転した後、営業を再開するものの、その勢いは衰えてついには廃業してしまいます。（第三版２７頁、第四版２５・１０９頁）

問４．正解　エ

アの鎌倉幕府は源頼朝が鎌倉に、イの室町幕府は足利尊氏が京都に開きました。織田信長は安土に城を築きましたが、幕府は開いていません。（第三版１８頁、第四版１７頁）

問５．正解　イ

「猿若」とは、初期歌舞伎で滑稽なものまねなどを演じた役柄（道化役）や、それを主人公とした歌舞伎狂言などのことです。「猿若三座」のあった猿若町は、明治５（１８７２）年に守田座が新富町へ移転するまで、江戸における中心的な芝居町（芝居小屋やその関係者が住むところが集まった地域）としてにぎわいました。（第三版２７頁、第四版２５頁）

問６．正解　ア

古墳時代の人々は、地面を掘り下げ、柱を立てて、ワラやカヤなどで屋根をふいた竪穴住居に住んでいました。イの長屋は江戸時代、ウの文化住宅は大正時代から建てられ、エのアパートメントハウス（アパート）が最初に建てられたのは明治時代のことです。（第三版１４～１５頁、第四版１４頁）

問７．正解　エ

アメ横は終戦直後の混乱した時代に生まれた商店街です。アの仲見世とウの浅草広小路は江戸時代にすでに商店が立ち並び、にぎわっていました。イの佐竹商店街は戦前からにぎわいがありました。（第三版４２頁、第四版３８頁）

問８．正解　ア

台東区は西側に上野台、東側に低地が広がっています。（第三版１２頁、第四版１２頁）

問９．正解　イ

国民学校初等科の３年生から６年生の児童らは、学童疎開の対象になりました。下谷区の学校は福島県、浅草区の学校は宮城県へ疎開しました。会津美里町は当時の疎開先の縁で友好都市になりました。（第三版４１頁、第四版３６～３８頁）

問１０．正解　ア

江戸時代中期になり調味料が使われ始めると、食べ物を屋台で売る商売が生まれました。江戸時代後期になると、そば・すし・てんぷら・おでん・うなぎのかば焼きなどの料理が考え出され、区内にもそれらを提供する有名店が現れました。（第三版４７頁、第四版４３頁）

問１１．正解　ア

江戸のまちは火事が起こると被害が大きくなりやすいので、町方・武家方それぞれに「火消」という組織がつくられました。当時は水を使って完全に消火することができないため、風下の家を壊して延焼を防ぎました。（第三版６１～６３頁、第四版５７～５９頁）

問１２．正解　イ

現代のように水道メーターなどで水の使用量を測ることができなかった江戸時代、水道の料金は身分によって変わっていました。そして、同じ町人の身分でも、間口によって料金が定められていたのです。「上水記」という幕府の公的な記録によると、ある時期には間口１間（約１．８２メートル）で年間１６文だったそうです。これは当時、そば一杯と同じくらいの値段でした。現在の集合住宅にあたる長屋では、大家がまとめて水道の料金を払うことが多かったようです。（第三版４９・５０頁、第四版４４・４５頁）

問１３．正解　エ

エは昭和時代に創業したお店で間違いです。江戸時代、市街地が拡大していくとともに人口は増え、市中には労働者らも集まることとなりました。食事の回数も１日３回と変化し、外では屋台で食べ物を提供するもの、あるいは高級な料理屋なども登場するようになりました。回答のア～ウはよく知られた店となったものです。このほか「駒形どぜう（越後屋助七）」などもありました。なお、華屋与兵衛という人物は江戸時代後期に知られた寿司職人でしたが、現在のレストラン「華屋与兵衛」とは直接は関係ありません。（第三版４７頁、第四版４３頁）

問１４．正解　エ

段ボールが日本で使われるようになるのは、明治時代以降のことです。（第三版５８頁、第四版５２～５３頁）

問１５．正解 ア

江戸の住民（長屋の借家人を除く）は石高や家の幅（間口）によって決められた水道料金を負担しました。亀有上水・青山上水・三田上水・千川上水は１７２２（享保７）年に廃止されました。家庭からの排水や雨水などは下水道に流されました。（第三版４９～５０頁、第四版４５頁）

問１６．正解 ア

食料不足が深刻になると、少ない食料品をお互いに分けあう配給制度が１９４０（昭和１５）年から行われました。まず砂糖、翌年からは米や小麦・酒類・魚・塩・みそ・しょうゆ・乳製品・パン・野菜・果物・菓子などが配給制になりました。（第三版５６～５７頁、第四版５１～５２頁）

問１７．正解　エ

靴は編み上げのブーツでした。ハイカラの由来は英語の丈の高い襟「ハイカラー」です。西洋風で目新しくしゃれていることを「ハイカラ」と呼び、西洋風のひさし髪をハイカラ髪といい、その髪型をしている人をハイカラさんと呼びました。（第三版５１頁、第四版４７頁）

問１８．正解 ア

勘亭流の文字は、１７７９（安永８）年に、江戸の堺町（現在の人形町）において、中村座が初春狂言として演じた題目を、この書体で書いたことに始まるとされています。この書体は大好評で、歌舞伎と共に全国に広がりました。勘亭流の文字は「肉太で、内側にはね入れ、丸みがある」のが特徴です。これは、肉太に隙間（空席）なく、内に客を呼び込み、興行の無事円満を願うという縁起を担いでいます。見やすく判読しやすいため、現在でもフォントのひとつとして、よく用いられています。（第三版８０頁、第四版７３頁）

問１９．正解　エ

ペットボトルは便利な容器で広く普及していますが、日本で最初に使われたのは１９７７（昭和５２）年で、比較的歴史の浅い工業製品です。（第三版７９・８１頁、第四版７２・７４頁）

問２０．正解 ウ

２００５年、上野広小路の地下駐車場整備のためにこの辺りを掘った際、三橋の下部構造である石組みの水路が見つかりました。保存状態も良く、堀の底に落ちていた貨幣も残っていました。三橋遺構は、貴重な遺跡としてその一部が再現・保存されています。三橋の名前は、現在ではそばにある甘味処「みはし」などに残っています。（第三版９２頁、第四版８３頁）

問２１．正解 エ

台東区は武蔵国の一部です。「武蔵国」の名称は古代からすでに使われていました。徳川氏が江戸に入府して幕府をひらくと、江戸が幕府のお膝元として重要な都市であることから、武蔵国は幕府が直接管理する重要な地域（直轄地）となりました。（第三版９７頁、第四版８７頁）

問２２．正解 ア

大名屋敷は上屋敷・中屋敷・下屋敷に分けられ、台東区内では上屋敷が２２置かれ、中屋敷・下屋敷は合わせて２５前後がありました。上屋敷は大名の家族、中屋敷は隠居や跡継ぎの住居、下屋敷は災害時の避難先や別荘などといったさまざまな用途に用いられました。エの標高は上屋敷・中屋敷・下屋敷と関係ありません。（第三版１０３頁、第四版９３頁）

問２３．正解 エ

現在、隅田川には多くの橋が架かっていますが、多くは江戸時代よりも後のものです。大火災といった災害が起こるたびに徐々にその数を増やしました。それまでは船で川を渡る「渡し」が設置されていました。そうした中、エの合羽橋は台東区生涯学習センター（中央図書館）の建つ合羽橋通りにあったもので、間違いです。ここには新堀川という川が流れていましたが、これが埋められて暗渠となっています。（第三版９６・９７頁、第四版８５・８６頁）

問２４．正解　イ

トロリー（英ｔｒｏｌｌｅｙ）とは、一般的には台車や手押し車を意味する語ですが、この場合は集電装置の先端にある「触輪」のことを指しています。トロリーバスは、日本国内では立山黒部の立山トンネルトロリーバスが２０２４（令和６）年に廃止されたのを最後に消滅していますが、海外ではいまだ使われているところがあり、チェコ共和国の首都プラハなどでは、かつて廃止されたトロリーバスが、排ガスを出さない交通手段として改めて注目され、２０１８年より４６年ぶりに復活しています。（第三版８６頁、第四版７７・７８頁）

問２５．正解　ウ

門前町が成立することによって、その周辺も発展し、市街地化がいっそう進むという効果もありました。（第三版１０５頁、第四版９５頁）

問２６．正解　イ

「花まつり」は、「灌仏会」ともいわれる仏教行事のひとつです。お釈迦さまの誕生日は、一般的には４月８日とされています。お釈迦さまの生まれた年には諸説ありますが、７世紀ごろに中国より伝来してから現在までずっと、日本では４月８日にお釈迦さまの誕生日が祝われてきました。お釈迦様に甘茶をかけ、甘茶をふるまいますが、この「甘茶」にはいろいろないい伝えがあります。「正しい政治を行い平和な世が訪れると甘い霧が降る」といういい伝えや、「飲むと不老不死になれる」という伝説など、いずれもいいもので、甘茶をかけることによってお釈迦さまへの信仰を表しているとされています。なお、「花まつり」という呼び方は、明治時代以降のものです。（第三版１１９頁、第四版１０７頁）

問２７．正解　イ

酉の市は毎年１１月の酉の日に鷲神社（地域によっては大鳥神社）で開かれる市のことをいいます。酉の日は１２日ごとに巡ってくるので、月に２度または３度の祭礼です。浅草の鷲神社は、もともとは農民の収穫祭に鶏を奉納したもの、別には農具を売る市から発展したものといわれています。農具の中でも「熊手」には「福を掻きこむ（取り込む）」という意味が与えられ出世や商売繁盛を願う人々の人気を呼び、お多福、千両箱、稲穂などの飾り物を付けた熊手が縁起物として売られるようになりました。また、食べ物としてヤツガシラ（芋）や切り山椒が売られます。ヤツガシラは頭が多いことから子孫繁栄や人の上に立つといった意味、切り山椒は長方形をしているので、「火の用心」の掛け声に用いる拍子木を連想させて、火事の予防としたものです。（第三版１２４頁、第四版１１１頁）

問２８．正解　ア

七福神詣は現在でも人気のある行事で、お正月に多くの参詣者を集めています。（第三版１１６頁、第四版１０４頁）

問２９．正解　エ

まないた開きは、二匹の鯉をまないたにのせ、手を触れずに長い箸と包丁で調理する儀式です。（第三版１１７頁、第四版１０４頁）

問３０．正解　ウ

明治時代に盛んだった朝顔市は、１９１３（大正２）年に途絶えましたが、１９４８（昭和２３）年に復活し、入谷鬼子母神（真源寺）境内を中心に朝顔を売る店が立ち並んで昼夜にぎわっています。（第三版１２２頁、第四版１０９頁）

問３１．正解　エ

源頼義・義家親子は鎌倉幕府を開いた源頼朝の祖先にあたります。今から９７５年程前の永承年間に朝廷の命令により今の東北地方の騒乱を治めるために、大勢の家来とともに現地に向かいました。神社のいい伝えによると、隅田川を渡るときに浅瀬の場所を白い鳥が示してくれたため、無事に川を渡ることができたということです。鳥越神社は６５１（白雉２）年の創建とされていて、日本武尊をおまつりしています。鳥越神社のお神輿は「千貫神輿」と呼ばれ重いことで有名で、宮入の時は提灯に明かりが入り「鳥越の夜祭り」といわれる荘厳な景色を醸し出します。（第三版１４０・１４１頁、第四版１２４頁）

問３２．正解　ア

節分の行事には、お寺や神社などにより色々な方法があります。「鬼は外、福は内」というかけ声が一般的です。（第三版１１７頁、第四版１０５頁）

問３３．正解　エ

新堀川がたびたび氾濫して住民が苦しんでいたため、合羽屋喜八が私財を投げ出して川を広げる工事を行いました。この時工事を手伝ったのが隅田川のかっぱ（河童）たちだという伝説があります。（第三版１２９頁、第四版１１５頁）

問３４．正解　エ

江戸時代に流行した朝顔は今では区の花に指定されています。毎年７月に開かれる入谷朝顔祭り（朝顔市）は、大勢の人でにぎわいます。（第三版１２２頁、第四版１０９頁）

問３５．正解　エ

琳派は先人の作品から学んで画風や技術を継承した人たちです。抱一の他に本阿弥光悦・俵屋宗達・尾形光琳・尾形乾山・鈴木其一などがいます。フェロノサは明治時代に来日した人物ですので、時代が異なります。（第三版１５５頁、第四版１３９頁）

問３６．正解　イ

東京音楽学校は明治時代以降の西洋音楽の発展に大きな役割を果たし、大勢の作曲家や演奏家を輩出しました。橋本雅邦は画家で、東京美術学校の教授です。（第三版頁１６３・１６４頁、第四版１４７頁）

問３７．正解　ウ

黒田清輝は、近代日本洋画の父ともいわれる人物です。１９２８（昭和３）年に完成した黒田記念館は、当時の美術館建築の様式で建てられました。その特徴的な外観と空間のデザインは改修後も引き継がれ、現在では登録有形文化財となっています。（第三版１６１～１６２頁、第四版１４６頁）

問３８．正解　ア

ロッシュは駐日フランス公使、パークスは駐日イギリス公使、ゴローニンはロシアの軍艦「ディアナ号」の船長です。（第三版１６６頁、第四版１４９～１５０頁）

問３９．正解　イ

東京には５つの目の色をした五色不動があり、目白・目赤・目黒・目青・目黄の各不動のことです。現在の目白（豊島区）・目黒（目黒区）の地名は、この五色不動にちなんだものです。永久寺には、目黄不動がまつられています。
（第三版１３５頁、第四版１２０頁）

問４０．正解　ア

明治から昭和の中頃までは、浅草六区には映画館が立ち並び、興行街として大変にぎわいました。（第三版１８４・１８５頁、第四版１６５・１６６頁）

問４１．正解　エ

花やしき（花屋敷）は、名前のとおり、もともとは花を楽しむ場所で、栽培した花を見せることを目的とした庭園や、休憩のための建物のある場所でした。江戸では、浅草の花屋敷に先立ち、１８０４（文化元）年に向島百花園ができ、文人（文学や芸術に秀でた知識人）たちのサロン的な場所として、錦絵に描かれたり、俳句に詠まれたりしていました。浅草花屋敷は、やがて動物も見せるようになり、大正から昭和初期には動物園としても知られていきます。１９４７（昭和２２）年、経営不振による紆余曲折を経て遊園地として再開園し、日本最古の遊園地となりました。現在もかつての名前を残し、「浅草花やしき」として運営されています。（第三版１８４頁、第四版１６５頁）

問４２．正解　イ

１９２７（昭和２）年に上野～浅草間で開通した地下鉄ですが、これは日本初であると同時に、アジア初の地下鉄でもありました。そのため、「東洋唯一の地下鉄道」として話題を集め、連日多くの人びとで混雑しました。早川徳次は、地下鉄道の事業化計画を、ほぼ彼ひとりの力で進めたといわれ、「地下鉄の父」とも称される人物です。早川は、地下鉄道の必要性を、東京市をはじめ実業家や有識者などに熱心に説いて回り、実現にこぎつけました。開通当初の車両は一両編成。途中駅は、現在と同じく「稲荷町駅」「田原町駅」でした。１９３９（昭和１４）年には路線が渋谷まで延長され、現在の東京メトロ銀座線にあたる全線が開通し、今に続いています。（第三版１８６頁、第四版１６６・１６７頁）

問４３．正解　ア

テキストには写真も掲載されていますが、木製信号機は１９１９（大正８）年に上野松坂屋前の広小路交差点に設置されたのが日本での始まりです。この標識板には「トマレ」「ススメ」とカタカナで書かれていて、当初は手動で標識板を回して用いていました。電灯式のものは昭和に入ってからのものです。（第三版１８８頁、第四版１６８頁）

問４４．正解　エ

不忍池では、１８９８（明治３１）年に自転車レース、１９０１（明治３４）年にオートバイレース、１９０２（明治３５）年に自動車レースが行われました。どのレースも、日本で初めてのことでした。（第三版１８０～１８１頁、第四版１６１～１６２頁）

問４５．正解　ア

ソメイヨシノは、吉野桜などと呼ばれていましたが、上野の博物館員の藤野寄命により１９００（明治３３）年にその名が発表され、広く知られるようになりました。（第三版１７７頁、第四版１５９頁）

問４６．正解　ウ

１６２５（寛永２）年、天海僧正は上野台地を比叡山に見立て、比叡山延暦寺にならって東叡山寛永寺を建立しました。不忍池は琵琶湖に見立てられ、琵琶湖の中の竹生島にならい池の中に弁天堂が建立されました。弁天堂の本堂は１９４５（昭和２０）年の空襲で焼けてしまいましたが、水舎（手水舎）は焼け残りました。現在は取り外して保存していますが、水舎の天井には谷文晁による水墨の天井画がありました。谷文晁は、下谷根岸に生まれた江戸時代後期の画家です。御三卿のひとつ田安徳川家に出仕し、老中松平定信に仕えたこともありました。画家・学者・文人らとの交友も広く、江戸の画壇の大御所として活躍していた人物です。（第三版２００頁、第四版１８０頁）

問４７．正解　ウ

ウのリンカーン像が瀧廉太郎銅像の間違いです。この学校で学んだ瀧廉太郎や山田耕筰らは、ここでピアノを演奏したり、歌曲を歌ったりしたものです。東京音楽学校の本館として建てられたこの建物も老朽化したことから、１９８７(昭和６２)年に現在地に移築され、翌年には重要文化財に指定されました。（第三版１９２頁、第四版１７２頁）

問４８．正解　ア

一円庵は東京都の有形文化財（非公開)です。 江戸千家とは初代川上不白 （１７１９～１８０７） によって始められた茶の道の流派の一つで、三畳台目席とは、三畳の客座と一畳のお点前の座で構成される茶室のことです。茶道では亭主（主人）がお客様の前でお茶を点てふるまいますが、その一連の作法をお点前といいます。茶室の外の待ち合い場所となる寄付きには丸いいろりがあり、その前の壁には太い柱があり、 そこには不白自身の文字が彫られています。（第三版２１１頁、第四版１９１頁）

問４９．正解　ア

旧岩崎家住宅は、もともとは江戸の徳川家を支えた榊原家の屋敷地に、岩崎久彌が邸宅を建てたものです。洋館は鹿鳴館の設計で知られたジョサイア・コンドルの設計で、さまざまな様式が組み込まれた折衷様式の建物です。近年、邸宅全体の整備が終了しています。（第三版２０９頁、第四版１８９頁）

問５０．正解　イ

この問題の最大のヒントは世界文化遺産に登録されたということです。アの朝倉彫塑館は国の登録有形文化財ですが、世界文化遺産の登録はされていません。ウの東京国立博物館も重要文化財ではありますが、世界文化遺産には登録されていません。エの表慶館は東京国立博物館の敷地内に建設された美術館で、やはり重要文化財ではありますが、世界文化遺産の登録はないものです。正解の国立西洋美術館（本館）は、２０１６（平成２８）年、日本を含む７か国が推薦するル・コルビュジエの建築作品のひとつとして、世界遺産に登録されました。（第三版２０７頁、第四版１８７頁）